

それは何も当該の人に話したりはしていませんけれど、そういう用地はあるのだから、だからスタートをもう一遍やり直さないかという意味で申し上げてるんです。ここはちょっと残念ですけれど、これ以上つまらないと思います。

もう一つ、通告をしておりますから、これについてお伺いをしたいと思います。清水保育園の今度は跡の問題なんです。いただきました資料を見ても、清水町の地域の役員の人たちに説明会をしたなどの経過はありました。しかし、具体的にあそこをこういうふうにだれが、こういう計画でこういうふうに使いたいなんていう具体的なもの何もなかったんです。そこはどのようなんですか。あそこはどうしようとなされているのかというのが一つなんです。そこは子育て支援課長、いかがですか。

○佐々木謙二委員長 種村正一子育て支援課長。

○種村正一子育て支援課長 お答えします。

地区の役員の方から地区の子供たちの育生を図るために学童クラブを取り組んでみたいというふうなご相談をいただいております。

長井小学校の学童クラブの現状ですけれども、144名で、長井小学校で3クラス、90名以上のお子さんが今、学童クラブで活動されております。長井小学校の学童クラブが大分マンモス化しておりますので、子供たちの安全確保、あるいは情緒の安定を図るためにも地域の方に取り組んでいただければというふうに考えております。

○佐々木謙二委員長 13番、高橋孝夫委員。

○13番 高橋孝夫委員 そのことで私はどうこう言うつもりはありません。そういうことで使っていただけるなら使っていただくというふうにしていいと思います。

ただ、私、市長にお伺いしますけれども、あそこ3年前からもうフェンスが壊れたまんま放置なんです。いいんですか、このまんまでずっとやってきたんだけど、直らないんです

よ。これ早急に私は手だてをしていかなきゃ、もう事故があった場合に大変なことになるというふうに思っております。今後、何に使うかは別にしても、もう手をかけなきゃいけないと思う。

ことしの秋の運動会ぐらいまで何か手だてをとっていただけませんか。あのまんまではとにかくだめです。なくすんならなくすでいいですから。そういうことも含めて私はやっていただきたいと思いますが、そこだけお聞きをして。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 昨年、私も現場の方を見まして、ことし見ておりませんが、なお、来年、今年度中に建てるということで、最小限のやり方で安全を確保していたと思いますが、今年度中も秋までは使うわけですから、最低限。ぜひそこをしっかりともう一度検討しながら、安全策をとるようにしたいと思います。

○13番 高橋孝夫委員 ありがとうございます。

江口忠博委員の総括質疑

○佐々木謙二委員長 次に、順位3番、議席番号3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 この4月に議員に当選させていただきまして、以前やりました一般質問、非常に緊張をいたしました。原稿を読むというのも私はなれておりませんで、汗だくで原稿を読みながらの質問をさせていただきまして、きょうは総括質疑ということで、午前中から先輩議員の質疑の内容をお聞かせいただいておりますと、さすがだなと、ああ、議論というのはこういうことを、こんなふうな観点からするものなのかということを改めて感じた次第なんです。今までは傍聴席の方から時々この委員会の質疑やら

+

傍聴させていただきましたが、いざこの場に立たせていただきますと、やっぱりそれなりの緊張感はあるものでございますが、きょうの私の質問は、市長が施政方針の中でも述べられております言葉を少し引用させていただきますながら、これからの長井の町、将来の町のあり方、形というものをちょっと私なりの私見も交えながら述べさせていただいて、それに対してのお考え等々もお聞かせ願いたいなど、そんな形でしていきたいと思っております。

通告しております内容を順番に沿って申し上げますけども、中では時々私も上下いろいろ錯綜することもあるかもしれませんが、その辺少しお許しいただきたいと思えます。

まず、長井の場合は人口減少、これは全国どこの市町村でもそうなのであります。人口減少が伴っておることの不安、未来への不安ということが慢性的になっているわけですが、市長も3万人の復活をこれから進めていくのだと、そういうお気持ちも以前からお持ちで、施政方針の中にもうたわれております。

やっぱり人口が減っていくというのは地域の疲弊が待たなし、地域が消滅するということにも結果的にはなるわけでありまして、人口の確保ということが私は何よりも大きな課題であると思うのですが、施政方針でも述べられておられますが、人が住みたくなる要素が長井にはたくさんあるのだということをお述べられております。そここのところをもう少し具体的なことをお上げいただければ幸いです。人が住みたくなる要素。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 さまざまな視点から考え方がありますので、これは本当にその人の立場立場で考え方が違うと思えます。ただ、私が市長として最大多数で申し上げますと、やはり一番市民の関心のあるのは働く場があること。雇用だと

いうふうに思っております。それがまず第一で、それ以外に例えば住環境にすぐれてるとか、あるいはいい教育が受けられる、あるいは医療・福祉・介護の体制が整ってる、そして子育て、安心してできる、そういったことなどもありますし、さらには例えば非常に自然が豊かなわけですから、そういった自然を満喫できるとか、あるいは芸術文化とか、そういった自分の生きがいを持ちながら、自分なりに生活できる、そういう町がやはり一番すぐれてるといふふうに思っております。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 どこの自治体でもそれは必須要件でありましようけども、今、全国1億2,000万ちょっとの人口でございますが、実はこの人口を各自治体で奪い合ってるわけですね。そのときにこの長井が持っている特性というものをどうとらえて、どうPRしていくかということがないと、なかなか人口の増加には難しいのかなというような気もするんであります。働く場、雇用の場ということは経済ということでありましようが、経済は手段でありまして、目的というのはやっぱり私は長井を見たときには命をつなげるところだと、私はこう確信しているんです。豊かな水と3,000町歩とも言われる耕作地、あと森林の面積もそうですが、後でもう少しこの辺は触れますけども、命をつなげる土地として、私はこの長井がこれから立っていかねばいけない、例えば大都会と比べましても、命をつなげる要素というのは長井の方がずっと持ってると思っております。後で少し触れますが。

ちょっと2番目の質問に移りますが、施政方針の中でも述べられておりますが、観光について、交流人口ということなんでありましよう。について述べられております。人口をふやすには定住人口とともに交流人口の増加を考える必要があります、中略しますけども、豊富な人脈を生

かした販路開拓、観光誘致など、産業振興の面での展開も図っていくということを述べられておられました。

全国すべての自治体には観光課までではなくても観光係であるとか観光振興に関するセクションがあります。私は以前からこのことに関しましては、すべて金太郎あめ方式でありまして、例えば小さな山村に伺いますと、この村の売りは何んですかとお聞きしますと、大体豊かな自然とおいしい空気と水があるということをおっしゃる。日本全国7割が山間地ですから、ほとんどすべからくみんなそうなんです。そこでどうやって差別化を図っていくかということが基本になれば、なかなか観光施策というのは有効に進めることができないと思うんですが、私は観光の後にあるのはすぐにでもやっぱり定住に向けたアクションだと私は思ってるんです。

先ほども申し上げましたが、人口が減ってはどのようなないんです。そこで観光振興による交流人口の増加策というのは、これは市民の誇り、私たちの町を見てくれているという誇りにもつながるのではありまじょうが、やはり観光施策を充実させるには折に触れ投資が必要です。お客様、来訪者をあきさせない斬新なサービスであるとか、投資というのが常に考えなければいけないのでありますが、大体そこが頓挫していくのが普通の自治体なんです。小さい規模の自治体。頓挫しないのは資本もたくさん持つてる、財政力豊かな自治体、あるいは企業が誘致している地域なんだと思います。

ここで長井も同じように観光施策をほかの自治体と同じような目線で持っていったんではやはり疲弊感が増すであろうということは、私は容易に想像ができるんだと思っております。ですから、やっぱり軸足は定住だということに私は置くべきだと思ってるんですね。

長井のよさは先ほど少し申し上げましたが、3,000町歩の田畑、そして豊かな水この森林面

積、そして適度に整ったインフラ、まちなかにいきますと市長がおっしゃっているコンパクトシティの様子、長井は非常に色濃く持っていると思っています。そういう意味では暮らしやすい町でありますし、実は私ごとで恐縮ですけども、私がかかわっておりますレインボープラン推進協議会の事務局、現在姓が変わりまして、小林さんとおっしゃいますが、彼女は埼玉からレインボープランのまちづくりに参加をしたくてIターンされた。こちらで男性と結婚されて、今お二人目のお子さんを産む準備に入っていると。伊佐沢においても伊佐沢で農業をしたくて縁つなぎの方なんです、宮崎から移住されてこられた。そしてその前に千葉県から女性の方がやはり伊佐沢で暮らしたいということで移住されてこられた。お二人が結婚されて今子供さんお二人目、お二人いらっしやいます。以前商工会議所の会頭、竹田会頭が就域という言葉を使われました。地域で就職活動、仕事を探す以前に地域に就くということが大事なんだと。地域に就いた人材をどう使いながら、あるいは人のアイデアをどう導きながら地域が活性化していくか、地域を活性化させていくかということがこれからは大事だと。就域という言葉も、もう今から20数年も前も話であります、当時の会頭さんはおっしゃっておられました。

まさに今申し上げた2つの例は、地域に就こうして来られた方なんです。これも縁なんです。レインボープランという縁があり、あと伊佐沢という地域が育てた縁があり、人々がやってくる。そういう例もほかにも多分たくさんあると思うんですが、長井の観光客、長井を訪れる観光客の方々にどういう縁つなぎをしなければいけないかということは、やはりもてなしの心でもありまじょうけども、長井に住みたくなる要素、先ほど市長が少しおっしゃっていただきましたけども、全国どこでもあるような要素ではなくて、長井独自の要素というのをこれか

+

から見出していかなければいけないと私は思っております。

ちょっとお考えをお聞きしたいのですが、一つ私は残念なことが私の記憶の中にございます。以前、昭和61年でありましたけども、日本地域学会の中で韓国の檀国大学の金教授が発表された択里志ということばを使われて、長井は世界で唯一人が暮らすに適しているところなんだと、そういうことを学会で発表されました。当時は私一市民として非常に大きな感動を覚えたのでありました。世界で唯一の楽土として発表していただいたということはすごいと。ぜひこれを使って長井は変わっていくんだろうなと思ったのであります。でもなかなかそのところはアドバルーンも大したアドバルーンも上がらずに、すぐトーンダウンしてしまったような気もするんですが、市長、その当時のご記憶等々も思い出していただきながら、この択里志の件に関しましてのちょっとご所見がおありであればお聞かせください。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私も択里志については、世界の地理学として、長井のような地形、南開北閉、西高東低というふうに言っていましたね。そして西に青龍とかなんとかかんとかというのはいろいろあったんですが、その択里志の先生を長井にお招きして講演していただいたというところまでは聞いております。しかし、その後、どうということかよくわかりませんが、択里志で言っていた長井が本当に人が住むには最適の場所だということ余り外にアピールしなかったということで、いつの間にか立ち消えになった。非常に残念だったなというふうにはその当時思っておりました。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。もう一つ残念なことを私が申し上げてしましますが、前市長、目黒市長さんの時代でありま

したが、バイオマス・ニッポン戦略総合推進会議というのが農水省、現在の農水省とそれから環境省であるとか関係府省が合わさってそんな会議が開かれました。第1回目の会議が、国策上の会議でありますから、非常に重たい会議でありました。その第1回目の会議の資料の中に既に長井のレインボープランが載っております。これは全国27例が資料には載せられておりました、そのうちマテリアル関係、つまり資材関係でいいますと17例、そのうち堆肥化プラントでありますとか、堆肥に関するバイオマス資源の利用という利活用に関しましては8例でしてそのうちの1件に長井のレインボープランが載っておるんです。

その当時から農水省も含めて非常に長井のレインボープランというのは注目をされておりました。目黒市長さん、当時の市長さんはアドバイザーグループの一員として国の会議に出席をされていたことが2回ほどあったと記憶しておりますが、その中で国がこれから大きくバイオマス戦略に舵を切る、今でもそういう考え方は国では色濃くありますけども、その舵を切るときに長井を参考にしていきたいのだという思いが国にはあったにもかかわらず、それを生かしていただけなかった、長井の政策の中で。非常に残念に思ったんですね。そうやって外部からいろんな評価をいただいているにもかかわらず、当地の行政の施策の中にはそれを歓迎をして、しかもそれをうまく使いながらマーケットも拡大していこうというところまでのアイデアがないと、私はそんな感じがしてたんですが、ぜひ同じ轍を踏まないようにしていただきたいと思うんですが、長井にたくさん今、評価がきております。その辺、市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ただいま江口委員がおっしゃった、せつかく全国27例の中の特に注目される長

井のレインボープランがあるということで、前市長がアドバイザーとして委嘱のあったんですが、それを生かせなかったということは、私も当時、市議会議員でありましたので、非常にもったいないなというふうには思いました。

これから、今も発信の仕方にもよるわけですが、やはりこの時代の方向性に合った、あるいは地域独自のさまざまな取り組み、しかも今自然エネルギーとか、そういった原子力に代わるものについてやはり時間をかけて取り組んでいかなければいけないような状況になっておりますので、そこについてはなかなか私自身はやはりまだまだ勉強が足りないというふうな部分でありますので、ぜひ議員の皆様からも、江口委員からもいろいろご提言なり、いろいろご指導いただければありがたいというふうに思っています。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

(3)の方に少し話を持っていきたいと思うんですが、人口の適正規模をどう考えるかということでもあります。

先ほどの議論の中では、今の上水道の設備は5万人を想定したということをお聞きしましたけども、今の長井の場合のインフラの普及率でありますとか、先ほど来申し上げております耕作面積であるとか、豊かな水量であるとか、でもいずれにしても限界はあります、人口の。この地域に10万人暮らせるというふうなことの保証はない。どこかで私は一線を引くべきだと思っております。

今どうしてもこれまでは大都市、東京とか大阪とか仙台もそうかもしれませんが、大都市の従属的な立場としての地域があった。人は吸い取られ、資源も経済も吸い上げられてしまったような時代が長かったわけですので、その結果、地域に疲弊感が生まれてきたということが事実だとすれば、これからは大都市への従属

的な立場としての地域はもうやめて、かといって大都市からどんどん人が来てくれればもろ手を挙げておいでおいでということでもなくて、こちらには適正な人口規模があるのだということの示し方も必要なんだという気がするんです。長井の場合の人口の適正規模というのを市長、どんなふうにお考えでしょうか。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私は首長としてであります、現在、長井の人口が3万人を切ってるわけですが、その前に市町村合併についての特例法というのがありまして、西置賜内であるいは置賜内でいろいろ模索したわけですが、結局合併はならなかったと。

その後、国の方では定住自立圏構想という考え方を出してまいりまして、いわゆる地域主権、地方分権の一つの新たな形として、その定住自立圏構想というのがやはり私ども地方自治体としても受け入れていかなきゃいけないだろうと。その要件というのが人口最低4万人という規模なんです。長井は残念ながらおおむね3万人ですから、1万人足りない。そうしますと、定住自立圏を我々が組めれば、長井を中心として周りの白鷹、飯豊、小国とか一緒に連携をしながらいいまちづくりができるんじゃないかなと思っております。

そんなことから現時点で考えられる長井の適正規模というのはやはり4万人を目指すべきだというふうに思っています。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

後でその定住自立圏構想の規模というのが4万人という数字の根拠もお聞きしながら、後で私なりの考えを述べていきたいと思っております。

今、長井市では例えば東京の大田区との交流であるとか、川崎市の多摩区との交流であるとか、さまざまなところと交流をつなげておりま

す。縁を結んでいるといってもいいのかもしれませんが。

フラワー都市もありましょうし、姉妹都市もごございます。こういった縁続きというのをこれからはどんどんやっぱり深く、強くしていかなきゃいけないと思うんですが、これ何か我田引水で大変恐縮なんですありますが、実は伊佐沢で4年前から私が提唱して、山形の芸工大の学生の作品を地域に野外展示をして、美術作品里親の村という構想も立ち上げて、現在を進行しておりますが、これは何をか言わんや、縁を委員会につないでいくか。全国多くの方々と縁をつないで伊佐沢を忘れ得ない土地にしてほしい。伊佐沢が常に頭の片隅にある、そんなことになっていけばいいだろうなという思いでもあるんですが、どうしても経済効果というのをすぐねらいがちであります、経済的効果よりも私はもてなしていただいたとか、優しくしていただいたとか、人が人としていつもいつも求めている根源的な欲求というものをきちんと満たしてあげるような縁つながりというところが私は大事なんだろうと思っております。

そういったときに、これまで市が市長のかけ声の中で取り組んでこられた、先ほど申し上げた川崎市多摩区との関係、あるいは大田区との関係、この辺のこれからの発展系というものももし構想でおありでしたらば、ぜひお聞かせください。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口委員がおっしゃいますように、長井はほかの市町村も同じぐらいの交流はされてると思うんですが、いわゆる行政間での姉妹都市、これは国内では結城市、それから国外ではドイツのバート・ゼッキンゲン市なんです、残念ながら結城市については市民同士の交流がほとんどないんですね。ですから、かつては議会でも2年に1回行ったり来たりしてたそうです。私は議員を2期させていただきまし

たが、残念ながらその間に行くチャンスはありませんでしたけども、現在はそういったことも余り検討されてないですよ。

市民同士の交流というのはほとんどないんです。ただ、観光のつながりであやめの時期に、今度の土曜日、結城市から来ていただきます。あと私どもの方も結城市のお祭りに参加する。そのぐらいしか交流がないんですね。しかし、一方でドイツの方は市民同士での交流がありますので、これは活発にされてると。

ですから、基本はやはり市民同士のつながりがないとなかなか自治体間の交流というのはいまよくいかないし、もしかしたら余り得るものもないのかというふうに思ってます。

一方で、ただいま委員からありました大田区とそれから川崎の例でございますが、川崎については約20年前ぐらいから平野地区の地区の方と川崎市の多摩区の商店街の方たちとの交流がありまして、直接現川崎の阿部市長との交流もあったもんですから、ずっと続いております。しかし、そこからどういうふうに深く進めるかっていうのがなかなかの課題です。

大田区も同じなんです、実はその交流のこちら、長井としてのねらいは、何か物を売ったりとか向こうに行くとかっていうんじゃなくて、来ていただいて、お越しいたきて、長井のよさをわかってもらって、行く行くは住んでもらいたい。あるいはセカンドハウスでいいから建ててもらって、行ったり来たりしてもらえないかなというねらいなんですね。大田区も大田区については地場産センターの事務所という形で3年前からしてるわけなんです、それは市民との交流が少しずつ出てまいりましたんで、これもねらいは同じです。その後にはやはり物流なんかいろいろ経済的なメリットもあればいいだろうな。大田区については逆に経済的な交流から入っておりますが、行く行くは江口委員の考えと近いなというふうに思っております。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

これからT P Pなんていう問題も国内外の問題としてこれからますます大きくクローズアップされてくるでありましょうが、日本では、例えば中国でありますと互恵関係という言葉が近年よく使いますが、私は国内でも各都市と都市、地域と地域が互恵関係であるべきだと思っています。今このたびの震災で多賀城市と長井市が互恵関係といってもいいのでありましょう。支え合っていこう、助け合っていこうという形を具体的な形で示していただきましたので、ふだんからやっぱり互恵関係をきちっと結べる関係性を姉妹都市以上に市民交流だけにとどまらず、行政、そして経済の分野においても、あるいは食料の分野においてもきちんとそういう提携まで結べるようなこれからの構想が私は必要だと思っておりますが、その辺については、もしお考え、ご感想もあればお聞かせ願いたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 都市との交流ということも重要なんですが、実はもう一つ、長井出身の方でやはり長井に対して非常に興味を持っていただいて、何か自分も長井のためにお手伝いを、あるいは尽くしてあげたいという方が結構いらっしゃいます。

しかし、長井は財政も厳しかったということもあったんでしょうけども、真っ先に旅費とかそういったいわゆる余計なことはできない状況がずっと続いてきたもんですから、残念ながら唯一関東致芳会というのが、本当に致芳地区出身の方がみんな関東周辺の人たちがいろいろ協力し合って、支え合いながら頑張ってきたんですが、同時にやっぱり致芳地区、長井に対しても何か貢献してこうといういろんな取り組みをしていただいています。

長井としてはそういったもの、そういった

方々にももちろん長井出身ですから、交流はさせていただくんですが、その人たちからの紹介でもっと輪を広げたい。そしてそういう人々と深くつながりのある町とか市とか、そういったところとの交流が深まって、いわゆる連携、互恵関係ができればいいなというふうに思っております。姉妹都市とか、伊佐沢の場合は金武町とかありますけども、それもそもそもはやっぱり住民同士の交流ですよ。そういったところをこれからはもっともっと力を入れていかなきゃいけない。ことはふるさと大使みたいな形でぜひスタートしていきたいと思っております。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 その辺はよろしくお願ひしたいと思います。財政も少し上向きかげんだということもお聞きしてますし、知り得ておりますので、やっぱり人の交流というところが長井の将来には非常に欠かすことのできない要点だと思っております。

さまざまな方々が長井に目を向けていらっしゃることは、今の市長のご答弁でもわかりましたけれども、例えば長井がこれまで取り組んできました循環型社会という取り組みに対して、例えば日本のメディアの中のオーソリティーとまでは言えないかもしれませんが、著名な方々、高野孟さんでありますとか、歌手の加藤登紀子さんでありますとか、最近では辛淑玉さんが、韓国の方ですけども、韓国から日本籍でありますけども、あとは内橋克人さん、経済評論家の方々も、本当に多くの注目を長井に向けていただいて、長井のこれからというものを案じてくださってるという方がたくさんいらっしゃいますので、その方々とも交流をつけながら、ぜひ日本に冠たる長井にしていきたいなと思っておりますが、そういった外からの評価が多い中で、今回の3・11の震災後、長井の意味というのがまた大きく今までと違った意味で外から評価がくださったということがございます。

+

それは、国道13号線が非常に混雑をしまして、新潟―仙台を結ぶルートの中で287号、348号、このルート、113号ということも当然真っすぐ宮城まで抜けることはできるんでありますが、この287号、348号ということが非常に大きくクローズアップされたと聞いております。

このルートというのは13号線を補完するルートでもあるんですね、北に向かう進路にしますと。そうしますと、ある意味でここは、長井というところは県内の物流の拠点にもなってくる。つまり太平洋側と日本海側を結ぶ大きなターミナルにもなり得るところだということは、そういった評価が上がってきてるんです。今回プラザの新しく造成といたしまししょうか、運動公園につきましても、防災基地としての役割も一部果たすのだということの答弁も以前からるございましたけども、将来、防災基地であれば山形県全体に網羅できるような物流の拠点、つまり震災が起きる、何か災害が起きたときに日本海、太平洋をつなぐ長井を拠点にしながら、国道13号線を補完する意味での287号、348号、この路線を使える長井というところをもっともっとアピールしていけばいいだろうと。そしていずれは本当にここに大きな物流の拠点をつくるなんていうことも、私も夢でもないし、ある意味で国策上からいっても必要なことだと私は思っているんですが、その辺、夢のような話というふうにお笑いかもしれませんが、市長の希望もあわせてもしおありでしたらばお聞かせください。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口委員ご指摘のとおりで、以前から東北、太平洋側で唯一の100万都市である仙台と日本海側の100万都市新潟を結ぶ中間点に長井は位置するということから、その物流の拠点ということがいろいろ言われておりました。また、最近では、これは最近といっても3年、5年前の話なんですが、例えばコンビニエンスストアのおにぎりとかなんかはやっぱり

大消費地の仙台と新潟の中間あたりでつくるのがいいと。だからこの置賜がいいんだというような話とかなんかもいろいろございました。

客観的に山形県内で、山形県という中で見ますと、実は地元の県議会議員、あるいは置賜の県議会議員の先生方からいろいろお伺いしますと、置賜の中の特にいわゆる南北線じゃなくて、東西線の横の線ですね。113号線と112号線と47号線。113号線はもう二ランクぐらい下だと。やはり山形県から見れば112号線、山形自動車道、それと47号線だと。しかし、今回の大震災で113号線のランクが同じまで2段階ぐらい上がったというふうな話を先生方はおっしゃってますんで、そういう意味ではチャンスだろうと思っております。

山形空港の重要性とか、あるいは酒田港の整備とか、県でもそういったことを、知事も先頭に立って新しい太平洋側一辺倒じゃなくて、均衡ある東北の発展も含めて、山形県側の日本海側でそういった機能を持たせると、補完するということを表明されております。

5月にありました山形県の知事と市町村長会議というのがございまして、その中でもたくさん出ましたので、私の方からも申し上げました。ぜひ置賜の方、山形県全体をもう少し知事、頑張る国のいろんな施設を持ってきたりとか、あと復興庁も決まったわけですが、もし東北に立地するんだったら仙台だけではなくて、山形あたりにぜひ考えるべきだとかいう話をしましたんで、その中で、これはタイミングだと思えますけども、ぜひ長井、地震にも強いわけですから。白鷹と飯豊が地震弱くて、長井だけが強いってなかなか言えないわけですけども、ただ震度計ではやはり概して1以上低いということが、今回の余震が続く中でわかりましたので、それらもどこかの時点でアピールしながら、やはり長井の占める優位的なところもどこかで訴えなきゃいけないというふうに思ってます

ので、ぜひ江口委員、また議会の皆様からお力添えいただければと思います。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 長井は地震に強いというか、鈍感だというか、行政も議会も鈍感でなくて敏感にならなければむしろいけないわけですが、やっぱり今のような構想においても、やっぱり政治力であったりするわけです。その政治力を支援していくのはやっぱりいろんな方々の縁だったりもするわけですので、先ほど申し上げたような、私がちょっと長井を高く評価してくださってる方々のお名前も少し申し上げましたけども、そういった方々との縁続き、やっぱり大事だなと思います。

ちょっとエネルギーの問題に少し移らせていただきますが、2番目にエネルギーの地域自給という問題であります。

先ほど市長の答弁の中で市町村合併、これ平成の合併の中で1市3町、あるいは置賜の合併ということがかなわなかったということがございましたけども、これからの市町村どういうふうにまとまっていくかということを考えますと、私は財政的な弱みをそれぞれ補完し合う関係ではなくて、人口の弱みを補完し合う関係じゃなくし、エネルギーの地域自給ということの観点からどう地域がつながっていくか、まとまっていくかということは、絶対的に必要な時代だと思っております。

そんな意味でちょっとお聞きするんでありますが、まず、市民の方々が一番最近ホットな話題、ホットでしょうか、わかりませんが、長井ダムが竣工がございました。これはもう数十年の悲願ということでありましようが、あそこのダムはかんがいとあと洪水調整であるとか、あと発電、野川の第一、第二の発電所に水を落とすという役割だと思いますけども、発電にしまして、長井の市民の方々がほとんど実感を持たれてないのです。

全国どこのダムもそのダムを抱えている市町村で発電の効果を自分の肌で感じていらっしゃる方ってないと思うんですが、私は本当は発電効果が地元にも本当にあらわれてくれば、地域の方々はダムを大事にしますし、ダムを取り巻く森林も大事にするでありましよう。ですから、公共事業もそうですが、身近に感じられる施策ということが、これはとても大事でありまして、そう考えますと今申し上げた長井ダムによって得られる電力がどこに行ってるのかということ、市長、おかわりになりますか。

○佐々木謙二委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 新野川第一ダム、第二ダムについては、山形県の企業局で運営してるわけですが、これはすべて東北電力の方に売電してるはずですよ。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。

どこからどこかに行ってまたこっち側に真っすぐ戻ってくるのかわかりませんが、今回の震災でも地元のエネルギーというのをどこから調達するかということに関しましては、やっぱり大きな問題となりました。今ダムの例は、ダムのことは一例として申し上げたんでありますが、これから先ほど申し上げたエネルギーの地域自給ということを考えますと、長井は本当に水が豊かだということを皆さん胸を張っておっしゃる。市民の多くの方々もそれに気づきつつある。

そのときに今後、小水力発電ということ、これ以前から言われておりますが、そこにも本格的に私は取り組んでいくべきだろうと思ってるんですが、もしその辺のお考え、ご所見があればお伺いしたいと思います。

○佐々木謙二委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 江口委員がおっしゃいますように、長井で自然エネルギーを活用するとしたら、小水力発電が一番ふさわしいというふうに思っ

ておりまして、現在、企画調整課の中でもいろいろ調査をしてるところです。かつてと違って落差がほとんどなくても電力発電、小水力発電ができるシステムができてるそうでありまして、例えば1基どのぐらいの発電できて、どのぐらいの設備が必要なのかとか、あるいは国内で小水力発電をたくさん導入してるとはどこだとか、そういったところを今調べながら、長井の可能性について検討しているところです。

なお、これはちょっといろんな法的な部分があるんですけども、長井ダムについては私どもの方で飲料水の権利を持っております。これは約8億円をかけて取得いたしました。ただ、うち4億円が国からの補助金なんですけど、これが今、私ども地下水でやっておりますので、全く使う必要がないんですね。ですから、これの1日1万トンだそうなんですけども、1万トンの水を利用してそれを発電として認めてもらえるような方向がこれからくるんじゃないかなと。ですから、せっかく1万トンの権利を持つてるわけですから、小水力発電はもちろんですけども、何らかの形でその水を生かす方法を検討したいと。

長井は雪が多いんで太陽光発電は残念ながら南、西の方にはかなわないでしょうし、風もやっぱり密集してますから、なかなか難しいと思っておりますので、やっぱり小水力発電が一番ふさわしいと、そのように考えてます。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 ありがとうございます。ちょっと希望が個人的にはわいてきましたけども。

エネルギーの自給の原則というのがあるそうでありまして、これをL・S・Pというんだそうですね。Lというのは頭文字ですが、ローカル、地域に則している、根差しているということでありましょう。Sはスモール、あるいはシンプル、これ小規模であって、簡単であるとい

うことがまず重要だそうであります。それからもう一つ、Pはポピュラーです。これ汎用性が高いということでありまして、これは要約しますと、地元で簡単に補修、メンテナンスができる、あるいはそのシステムの製造もできてしまうというようなことが地域自給率を高める上では大事だということが言われているんだそうあります。

やっぱり先ほど来レインボーの話ばかりして恐縮でありますけど、レインボーのコンポストセンターにおきまして、荏原がつくっていただいたのでありますが、あれの更新が非常にまた今後難しい問題になるであります。今、置賜産業会の方々は自分たちでも何とかできることあればするよというふうなこともおっしゃってくださっています。これからの、先ほど市長が答弁していただいた小水力発電のシステムにしなくても、ぜひ地域の技術力というのを使って、これから開発までいければいいなと思っております。

そうやって地域の方々が地元のエネルギーも含めて公共的な事業に直接かかわっていきながら、自分たちの暮らしにそれが実感として返ってくるという、そういうことを考えますと、一ついい例を申し上げますが、栃木県の茂木町というのがありますが、これはもう長井市に倣いながら循環型社会を目指してバイオマス発電も含めて生ごみ堆肥化をしているところでありまして、お年寄りたちに山から枯れ葉を、落ち葉を集めてきてもらって、10キロぐらいの袋なんでありましょいか、400円で町が買い取って、それも一緒に堆肥化してるということなんでありまして。非常にお年寄りが元気になりまして、山もきれいになりまして、お年寄りたちが、お年寄りが住まいされてる家庭の家族みんなが自分たちがどう町にかかわって、しかもそれが外部性として自分たちにもきちんとお金として返ってきてるという仕組みがあるんだそうですね。

非常に生き生きとしてるといふことの例を聞きました。

長井でこれからどうするかということもありますけども、これからのバイオマスを考えたときにもやはりいろんな資源を長井のコンポストセンターには投入することも、これは考えなければいけないんでありましょうし、地域の方がきちっと実感を持ってかかわられる仕組みづくりも必要なんだと思っております。

私はレインボープランにかかわって、生ごみのもとになっていないとそのシステムが稼働しないというのはおかしいと。生ごみはやはり極力少なくして、暮らしをこれから立てていくべきなのに、生ごみがなければ稼働しないというのは、これは破綻をするよと。また、破綻してもいいと。私は危険思想かもしれませんが、そんなことを以前発言をしたことがございました。そういった意味では有機資源をいかに確保していくかということ、これから大事なことでありますが、落ち葉であるとか、土手、堤防で草刈りをした後の草でありますとか、いろんなものがありますので、私が申し上げたいのは、そういったものを住民の方が本当に身近に感じられるものを、自分たちのちょっとした汗で町の公共財として利活用できるという実感をぜひ味わえるような行政施策をこれから求めていきたいと思っておりますので、住民の方々が実感できる喜び、貢献というものがやがては長井の本当に住みやすい、日本一幸せに暮らせる町に近づいていく一つの道かなと思っておりますので、るる申し上げましたけども、市長にその辺ご感想もお聞きしながら、質問を終わりたいと思っておりますが、どうぞ。

○佐々木謙二委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口委員からありました茂木町、栃木の。バイオマスタウン、すばらしいと思います。この近くですと隣の飯豊町とかあるいは川西町とか積極的にそれを取り組んでるわけで

すが、長井の場合はどういうふうにしたらいいのか、残念ながらちょっと私としては構想力が足りないのかというふうに思っておりますので、ぜひ江口委員なりあるいは議会の皆様、またレインボーの皆さんからもいろいろご提案いただければなというふうに思っているところです。

何としてもバイオマス資源の活用を推進しなきゃいけないというふうに思っております。県の方からも、長井市としてもバイオマスの活用の計画をつくってほしいと。大体の市でつくってるぞということなんですけども、どうも、例えばレインボーのプラントはあるわけですけども、あとは山林の資源とか、そういったところどう生かすかというところが、エコファーム長井もありますけれども、やはり1回そういった検討委員会までいかなくとも、懇談会みたいなものを設けてまして、少しいろいろ意見交換しながら、あるいは先進地を見に行ったりして、長井に合ったバイオマスの活用の方法、やっぱりある程度時間がかかってもしょうがないと思います。やっぱりじっくりとこれは検討していく必要があるなというふうに思っておりますので、何とぞご指導いただければと思います。

○佐々木謙二委員長 3番、江口忠博委員。

○3番 江口忠博委員 余り時間もかけないでやってほしいんでありますが、先ほど申し上げましたバイオマス・ニッポン総合戦略推進会議の中で、それから生まれたのでありますが、バイオマスタウンという公募事業がございました。その中で最初に公募で1回目で承認されたといひましようか、認めていただいたのが福岡県の大木町というところがございます。ここは長井のレインボープランに何度も町長さんも含めて視察に来られて、長井のレインボープランをまねしてというか、モデルにしながら進めてこられたところだそうでございます。生ごみの回収は長井と同じ方式をとっています。同じようなバケツを使って、70リットルほど入るバケツを

+

使ってやっておられます。

長井がこのバイオマスに関しては本当に全国でも先駆的なところだということの評価は、先ほど来申し上げましたが、高いのでありまして、ぜひ時間をかけてと言わずに、それこそバイオマス長井戦略会議等々など名前もつけてでも立ち上げていただければと思う、そんな希望も申し上げますながら、質問を終わりたいと思います。

まだ、時間若干残っておりますが、後に続く議員の方々に時間をお譲りして、これで質問を終わります。ありがとうございました。

小関秀一委員の総括質疑

○佐々木謙二委員長 次に、順位4番、議席番号5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 今まで特に江口委員には壮大な総括の質問ありまして、長井の将来とかさまざまな課題について、特に市長の見解などをお聞きして、大変参考になったなというふうに思います。

ただ、私、外を見ながら、さらに雨あんまり降んねえといいなというふうに。きのうからの雨で現実、こういう建物に入ると見えませんが、きのうは朝から夜半まで、みんな、特に私の地域に関しては出る人がみんな出はって点検をしたり、水の回しをしたり、特に私のところは土地改良事業もしておる関係もあって、業者の方も一緒になって地区回りをしたというふうな1日でありました。もう少し雨が続けば大変な被害になることを想定しながら、少し床下まで及ぶような自宅については、平野の安全推進協議会の方、いわゆる自治防災組織の方と相談をしながら、避難所の手だてまで実はした部分もあったわけで、一般質問のさなかに質問でもさせていただいた、思ってもいないときや

っぱり災害というのは来るんだというふうなことも、きのうも、きょうも心配事の一つとして味あわされている現実であります。

水っていうのはやっぱりないときは汲んでおき、あるときは凶器になるというふうなことでありますので、住民の方々の安全なり、百姓の立場からいえば農地の保全なりを含めて、いろんないわゆる準備をしておかなければならないというふうに改めて思ったところであります。

できれば、時間が許せばですが、市長なり担当課長さんからきのうの被害など、報告あればよいわけですが、まだこういう雨のさなかでありますし、総括の質問には上げておりませんので、後日報告いただきたいもんだなというふうにお願いを申し上げまして、総括の質問をさせていただきます。提示をさせていただきました質問に沿って始めます。

3月議会の条例改正で既に長井市の体育施設条例については指定管理者の部分とパークゴルフ場の利用料金について設定をされ、またさらには、予算処置の中では債務負担行為についての決議をもう既になさってるということでありましたので、そこを戻すなということはないわけで、それに沿って今般の特に議案の54号 指定管理者制度の指定についての議案が提示されたものというふうに理解しております。

指定管理者制度については、るる振り返って申すまでもなく、賛否についてはいろいろあつかうと思います。市民へのサービスがもっと向上するように民間の力を入れていくのだとか、さまざまいい点と、今までにじゃあ、市役所職員なり直営でできてきてなして効率的でねかったんだかというふうな、両面を考えた問題点あるわけで、その論議をしてくと時間もこの場ではありませんのでおかせていただきますけれども、当然今回の指定管理者制度を提案されるに当たって、条例改正を既にされておりますので、このところについてご質問をさせていただきます